

令和4年度 平野区運営方針(素案)

(区長:武市佳代)

◆計画

区の目標(何をめざすのか)

- ・すべての人がお互いを尊重しつつ、つながり、支えあえるまち『ひらの』をめざす。
- ・誰もが愛着を持ち、安心して住み続けることができるまち『ひらの』をめざす。
- ・子どもたちが家庭・学校・地域で生まれ健やかに成長し、次の世代を担っていくことができるまち『ひらの』をめざす。

区の使命(どのような役割を担うのか)

- ・防災、防犯などの地域課題の解決に向けて、様々な主体が協働し、積極的に関わることができるよう支援する。
- ・互いの人権を尊重し、地域ぐるみで支えあい、健やかにいきいきと、平野に愛着を持って暮らせるまちの実現をめざす取組を進める。

令和4年度 区運営の基本的な考え方(区長の方針)

- ・地域の自助・共助がいかに大切かを呼びかけながら、大規模災害や新型コロナウイルス等の感染症に備えた防災力の強化を図る取組を、喫緊の課題としてさらに進めていく。
 - ・コロナ禍で支援を要する方々がさらに増加すると見込まれるなか、地域で孤立することがないよう、「発見」「見守り」「支える」ための取組を一層充実させていく。
 - ・子どもたちの健やかな育みを支えるため、基礎学力の向上、読書習慣及び家庭学習・生活習慣の定着に向け、今後とも子どもたちが「生きる力」を身につけ、自立した大人になれるよう、小学校就学前から高校卒業まで切れ目のない施策を進めていく。
 - ・孤立した家庭環境や保護者が抱える不安の中で、児童虐待が深刻化しており、虐待を未然に防ぎ、深刻化させないための対策をより一層強化していく。
- ⇒ 新型コロナウイルス感染症の影響により、社会的活動に制約が生じている状況にある今、これまで以上に人とのつながりは重要性を増している。
- 区における様々な課題に対し、異なる分野の取組を連携・協働することでその解決を図りながら、各取組を通じ「地域のつながり」、「地域と区役所とのつながり」、「区役所職員間のつながり」を主体的に醸成し大切にするとともに、これまで培ってきた地域や区役所の様々な取組を積極的に発信し、「次世代につなげる(継承する)」ことで、平野区を笑顔で暮らしやすいまちにすることをめざす。

重点的に取り組む主な経営課題(様式2)

経営課題の概要	主な戦略
【経営課題1】 安全・安心のまちづくり	○ 地域防災力の向上 ○ 地域防犯力の向上 ○ 地域活動力の向上 ○ 地域魅力の向上
主な具体的取組(4年度算定見込額)	
○ 地域防災力の向上【4年度算定見込額:8,230千円】 地域防災力向上に向けた支援(防災訓練・情報伝達訓練の実施支援など) ○ 地域防犯力の向上【4年度算定見込額:7,362千円】 地域防犯力向上に向けた支援(防犯や交通安全のための啓発やパトロールなど) ○ 地域活動力の向上【4年度算定見込額:76,821千円】 地域活動力向上に向けた支援(地域活動協議会の自律的・継続的な活動の支援) ○ 地域魅力の向上【4年度算定見込額:3,831千円】 まちの魅力の向上に向けた未利用地の有効活用(未利用地の有効活用の方向性の整理)	
経営課題の概要	主な戦略
【経営課題2】 みんなで支えあう福祉のまちづくり	○ 地域福祉力の向上
主な具体的取組(4年度算定見込額)	
○ 地域福祉力の向上【4年度算定見込額:47,221千円】 各地域の特性に応じた地域福祉支援体制の充実 (地域福祉のネットワークづくりや地域福祉活動コーディネーターの育成など) 地域における支えあい活動への支援 (地域福祉の担い手の確保や取組支援、支援が必要な方への理解促進など)	

経営課題の概要	主な戦略
【経営課題3】 こどもが元気で育つまちづくり	○ こどもの生きる力の向上
主な具体的取組（4年度算定見込額）	
○ こどもの生きる力の向上【4年度算定見込額:58,898千円】 児童虐待防止・早期発見への取組や子育てに悩む親への支援 （子育てにおける親の孤立化の抑止や子育てしやすい環境づくりなど） こどもの学習意欲の向上 （区内市立小学校への学力サポーターの派遣や小・中学生の読書習慣の定着など） こどもたちへのサポートや学校生活の定着支援 （こどもサポートネットの効果的な実施、高校生活の定着・卒業後の自立に向けた支援など）	

「市政改革プラン3.0」に基づく取組等（様式3）	
主な取組項目	取組内容
主な取組項目	取組内容
主な取組項目	取組内容

◆自己評価

1年間の取組成果と今後取り組みたいこと

解決すべき課題と今後の改善方向

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題1

【安全・安心のまちづくり】

【主なSDGsゴール】



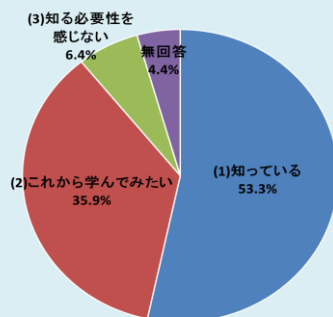
めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間で念頭に設定＞

誰もが愛着を持ち、安心して住み続けることができるまち『ひらの』をめざす。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

【地域防災力の向上】令和2年度ひらの区民モニターアンケート結果

【自助・共助の取組みの大切さを知っていますか？】



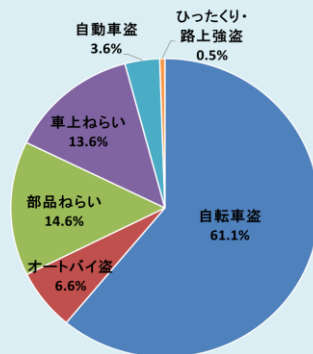
項 目	平野区	出 典
災害時避難所	42 箇所	危機管理室
福祉避難所・緊急入所施設	10 箇所	危機管理室
水害時避難ビル（市立小中学校等）	34 箇所	危機管理室
水害時避難ビル（市営住宅等）	124 箇所	危機管理室
地域防災リーダー数	622 人	平野区役所安全安心まちづくり課
地域防災訓練等の実施	6 回	平野区役所安全安心まちづくり課
避難行動要支援者数	14,182 人	平野区役所安全安心まちづくり課
災害時協力企業店舗数	123 社	平野区役所安全安心まちづくり課

（令和3年10月1日時点）

【地域防犯力の向上】令和2年中 平野区内の主な街頭犯罪発生件数

【平野区内の主な街頭犯罪発生件数】

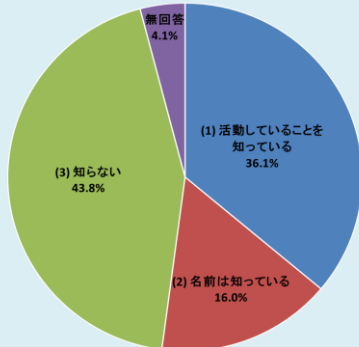
項 目	件数
ひったくり・路上強盗	4 件
自転車盗	453 件
オートバイ盗	49 件
部品ねらい	108 件
車上ねらい	101 件
自動車盗	27 件
計	742 件



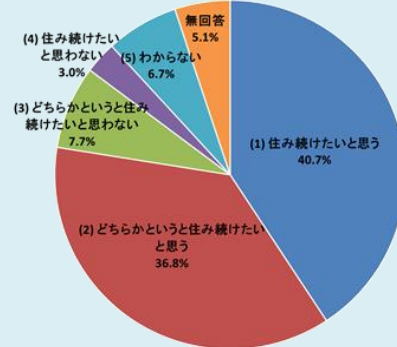
出展：大阪府警察犯罪統計資料

【地域活動力の向上】令和2年度ひらの区民モニターアンケート結果 【地域魅力の向上】令和2年度ひらの区民モニターアンケート結果

【「地域活動協議会」のことを知っていますか？】



【これからも平野区に住みたいと思いますか？】



・区内の未利用地総面積 206,233㎡
 （市営住宅建替跡地やもと施設など）（令和3年8月1日時点）

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

【地域防災力の向上】

- ・ 近年、多発する自然災害により甚大な被害が発生し、高齢者や障がいのある人など、自力避難が難しい要支援者のための個別避難計画の策定が求められている。平野区でも、東南海地震のほか、大和川などの河川氾濫への備えが必要である。また災害発生後は、新型コロナウイルス等の感染症に備えた避難所運営が必要となる。

【地域防犯力の向上】

- ・ 平野区の街頭における主な犯罪発生件数は年々減少傾向にあるが、自転車盗の占める割合が依然として高い。
- ・ 特殊詐欺について、オレオレ詐欺だけでなく還付金詐欺や架空料金請求詐欺など近年手口が多様化している。
- ・ こどもの防犯意識を高める必要がある。

【地域活動力の向上】

- ・ 地域住民（区民）が地域活動など身近なつながりが重要と感じている方は約9割である。地域活動協議会及びその取組について、認知度が上昇傾向にある。しかしながら、意義や機能の理解促進が十分でない。
- ・ 地域活動協議会の実情に応じた支援を行っているが、会計支援を必要としている地域が多い。また、地域活動の担い手不足が課題となっている地域が多い。

【地域魅力の向上】

- ・ 区内には非常に多くの未利用地がある。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

【地域防災力の向上】

- ・ 地域住民が「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自らの判断で避難行動をとるには、必要な防災情報を幅広く、様々な方法で発信し、災害に対する認識を深め、防災意識を高め、「自助」「共助」の重要性を理解してもらう必要がある。
- ・ 消防とも協力しながら地域防災リーダーの育成を進め、自主防災組織が主体となって、多くの地域住民等の参加による防災訓練等を実施し、地域のつながりづくりを進めるとともに、高齢者や障がい者などの災害時避難行動要支援者への理解を進めていく必要がある。
- ・ コロナ感染症対策に配慮した避難所開設訓練の実施。また、安全が確保されている場合は感染リスクのある避難所ではなく在宅等での避難や備えの必要性を周知する必要がある。

【地域防犯力の向上】

- ・ 地域住民や警察と協働で防犯活動に取り組むことで、防犯意識を高める必要がある。

【地域活動力の向上】

- ・ より効果的な支援の実施に向けて必要な見直しを行い、自律運営ができるよう地域の実情に即した最適な支援を行うとともに、住民が地域事業に参加できるよう広報紙等で情報発信を強化する必要がある。また、地域活動協議会の意義や機能の理解が深まるよう、積極的な働きかけや情報発信を行う必要がある。

【地域魅力の向上】

- ・ 未利用地の有効活用を行うなど、愛着を持って住み続けられる魅力あるまちづくりを推進する必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略 1-1 【地域防災力の向上】

計画	めざす状態＜概ね3～5年間で念頭に設定＞		戦略（中期的な取組の方向性）	
	防災リーダーが中心となり、自主防災組織による主体的な取組を実施することにより、防災意識の普及啓発に努め、地域住民が防災に高い関心を持っている状態		・自助体制の確立 「自らの命は自らが守る」ための「自助」の備えの周知 ・共助体制の確立 自主防災組織の主体的な防災訓練等の実施	
計画	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）			
	防災意識が高まったと感じる区民の割合：区民モニターアンケートで令和7年度末までに85%以上			
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体		
	A：順調 B：順調でない		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない		

具体的取組 1-1 【地域防災力向上に向けた支援】

		2 決算額	6,345千 円	3 予算額	8,260千 円	4 算定見込額	8,230千 円
計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）				
	・地域住民が、「自らの命は自らが守る」意識を持ち、災害時に適切な避難の判断・行動ができるよう、区HPや広報紙等で情報発信を行う。 ・各地域の防災リーダー代表者を対象とした連絡会を開催し、防災教育、スキルアップ研修、地域間での情報共有等を行うことで、地域の自主的な防災活動が円滑に進められるよう支援する。 年2回 ・各地域で防災訓練・情報伝達訓練が実施できるよう支援する。 11地域 ・避難行動要支援者に対する理解促進のため、災害時に自立して避難行動ができない方に参加してもらい避難所開設訓練を実施する。 5地域		防災の取組を通じて自助・共助の大切さを感じる区民の割合：区民モニターアンケートで60%以上 【撤退・再構築基準】 上記の目標が40%未満であれば事業を再構築する。				
計画			前年度までの実績				
			令和3年度実績（令和3年10月末時点） ・小中学校で実施する防災の取組 4回 ・地域での防災訓練等 2回 令和2年度実績 ・小中学校で実施する防災の取組 全 9回 ・地域等での防災訓練 全12回 ・災害時図上訓練 全2回 ・コロナ禍における避難所開設訓練 全2回 ・平野区役所全職員防災研修 全5回 222名参加				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成						
自己評価	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ―：プロセス指標未設定（未測定）					
	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
自己評価	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ―：プロセス指標未設定（未測定）					

めざす成果及び戦略 1-2 【地域防犯力の向上】

計画	めざす状態＜概ね3～5年間で念頭に設定＞ 地域住民との協働や警察との連携によって、より安全で安心なまちづくりを推進している状態		戦略（中期的な取組の方向性） ・防犯カメラの設置や青色防犯パトロールによる地域住民の自主的な防犯活動の支援 ・区内の広報板等を活用した自転車盗に対する啓発 ・特殊詐欺被害に遭いやすい高齢者を対象とした出前講座の実施 ・こどもの犯罪被害防止に向けた取組の実施	
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 防犯意識が高まったと感じる区民の割合：区民モニターアンケートで令和7年度末までに80%以上			
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体		
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	A：順調 B：順調でない			
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない		

具体的取組 1-2 【地域防犯力向上に向けた支援】

		2 決算額	8,446千 円	3 予算額	10,201千 円	4 算定見込額	7,362千 円
計画	当年度の取組内容 防犯カメラの設置 青色防犯パトロールによる区内巡視 自転車盗に対する啓発 特殊詐欺被害防止の啓発 「こども110番の家」によるこども見守り活動		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） 防犯啓発やパトロールが犯罪発生抑止に効果があると答えた区民の割合：区民モニターアンケートで80%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が40%未満であれば事業を再構築する。 前年度までの実績 令和3年度実績（令和3年10月末時点） 防犯キャンペーン 見守り活動・パトロール等 令和2年度実績 防犯キャンペーン 見守り活動・パトロール等				
	中間振り返り	プロセス指標の達成状況 ①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成 戦略に対する取組の有効性	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）				
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	プロセス指標の達成状況						
	①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	戦略に対する取組の有効性		ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）				

めざす成果及び戦略 1-3 【地域活動力の向上】

計画	めざす状態＜概ね3～5年間で念頭に設定＞		戦略（中期的な取組の方向性）	
	- さまざまな人が地域活動に参加し、地域団体間での連携・協働が行われ、地域と行政が協働しながら地域課題の解決に取り組んでいる状態 - 防災、防犯など安心・安全なまちづくりにかかる取組及び地域福祉、子育て支援、地域コミュニティづくりなどその他地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態		- 地域活動協議会がこれまで活動に参加していなかった層への活動周知・参加促進をするための支援 - 地域活動協議会において、地域団体間の連携・協働し主体的に地域課題の解決に取り組める体制支援 - 地域活動協議会のめざすべき姿に向けて、地域の実情に即したきめ細かな支援を行い、仕組みの定着を図ることで、より多くの住民参加による自律的な地域運営を実現する。	
計画	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）			
	- 地域活動協議会を知っている区民のうち活動に参加したことがある及びしようと思っている割合：区民モニターアンケートで令和4年度末以降継続的に70%以上 - 地域活動協議会の構成団体が、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思う割合：構成団体へのアンケートで令和5年度末までに90%以上			
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体
	A：順調 B：順調でない			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない		

具体的取組 1-3 【地域活動力向上に向けた支援】

		2 決算額	77,471 円	3 予算額	78,176 円	4 算定見込額	76,821 円
計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）				
	- 地域による主体的なコミュニティ活動を行う地域活動協議会へ活動に対する財政的支援や中間支援組織を活用した自律的な地域運営への支援を行うことで、多世代が交流できる取組や住民間のつながりの促進を図る。 - また、地域が特に負担に感じている会計処理について、中間支援組織を活用して支援することでさらなる自立を促す。 - 多世代の方が地域の情報を得ることができるよう、地域活動協議会をはじめとした地域における活動・イベントなどを、区の広報紙やホームページ等、紙媒体・電子媒体を効果的に活用して広報するとともに、自ら地域活動協議会が広報活動を行えるように、中間支援組織とともに支援する。 - 子育て世代と高齢者をマッチングできるような取組を検討する。		地域活動協議会を知っている区民のうち活動内容を知っている区民の割合：区民モニターアンケートで40%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が30%未満の場合は支援手法を再構築する。				
計画			前年度までの実績				
			令和3年度実績（令和3年10月末時点） ・地域活動協議会補助金 22地域交付 ・地域活動協議会の広報状況 広報紙9地域、ホームページ9地域、ブログ10地域、Facebook4地域、Instagram10地域 令和2年度実績 地域活動協議会を知っている割合：52.1% ・地域活動協議会補助金 22地域交付 ・地域活動協議会の広報状況 広報紙9地域、ホームページ9地域、ブログ10地域、Facebook4地域、Instagram10地域				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成						
中間振り返り	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）					
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	プロセス指標の達成状況						
自己評価	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須						
自己評価	①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）					

めざす成果及び戦略 1-4 【地域魅力の向上】

計画	めざす状態＜概ね3～5年間で念頭に設定＞ 区民ニーズ等を踏まえた未利用地の有効活用の方性に基づき、まちの魅力の向上に取り組んでいる状態		戦略（中期的な取組の方性） 区政会議などの場において区民ニーズを把握する機会3回以上	
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 平野区に住み続けたいと思う、どちらかといえば住み続けたいと思う区民の割合：区民モニターアンケートで令和7年度末までに82%以上			
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体		
	A：順調 B：順調でない		今後の対応方性 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない		

具体的取組 1-4 【まちの魅力の向上に向けた未利用地の有効活用】

		2 決算額	12,395千 円	3 予算額	16,407千 円	4 算定見込額	3,831千 円
計画	当年度の取組内容 区政会議などの場において区民ニーズを把握し、未利用地の有効活用の方性の整理に取り組む。 未利用地を活用した事業に取り組む。		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） 区政会議などの場において区民ニーズを把握する機会3回以上 【撤退基準・再構築基準】 上記目標を下回る場合、手法を再検討する。 前年度までの実績 令和3年度実績（令和3年10月末時点） 区政会議などの開催 2回 令和2年度実績 区政会議などの開催 4回				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）					
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	プロセス指標の達成状況						
			改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）					

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題2

【みんなで支えあう福祉のまちづくり】

【主なSDGsゴール】

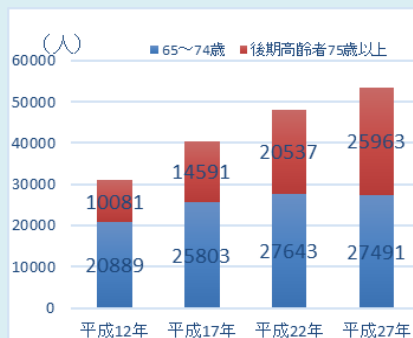


めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間で念頭に設定＞

すべての人がお互いを尊重しつつ、つながり、支えあえるまち『ひらの』をめざす。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

平野区 高齢者数の推移

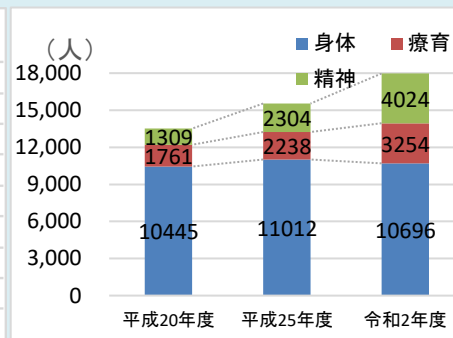


出典:国勢調査

平野区 在宅認知症高齢者数の推移

※要介護認定調査結果を基に推計
(数値は各年の4月1日時点)

平野区 障がい者手帳所持者数の推移



出典:福祉局統計資料

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、地域包括ケアシステムの構築にあたって、当区においても種々の取組を進めてきているが、今後はより一層、地域における福祉的課題は複雑化していくことが見込まれる。特に、平野区では高齢者や障がい者など支援を要する区民が多く、今後もさらに増加が見込まれる。また、可能な限り、誰もが住んでいる地域で住民同士お互いに支えあいながら暮らし続けることができるよう、多様な職種間の連携によるネットワークづくりが必要である。

- ・後期高齢者数: 約2.6倍(平成12年⇒27年)
- ・在宅認知症高齢者数: 約1.9倍(平成21年⇒令和2年)
(参考値)令和3年6月1日時点3,319人ただし、「臨時的な取扱いにより要介護認定の延長をされた方の認定情報」は未反映。
- ・障がい者手帳所持者数: 約1.3倍(平成20年度⇒令和2年度)
⇒増加傾向が今後も続くと思込まれる。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- ・支援が必要な方への正しい理解の促進を図りつつ、早期発見や早期支援へつなげていく必要がある。支援が必要な方を「発見」「見守り」「支える」ための地域特性に応じた支援体制が必要である。
- ・健康寿命の延伸を図るため、寝たきりにならないようにするための運動習慣や、認知症の発症を予防(遅延)する取組を区民に広げる必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

自己評価

めざす成果及び戦略 2 【地域福祉力の向上】

計画	めざす状態＜概ね3～5年間で念頭に設定＞		戦略（中期的な取組の方向性）	
	地域の実情に応じた地域支援体制が有効に機能しつつ、認知症や障がいがある人などのさまざまな状況に対する理解を深めながら、区民がつながり支えあい、住んでいる地域で健やかでいきいきと暮らしている状態		地域での福祉活動を中心的に担う「地域福祉活動コーディネーター」が地域の福祉活動の担い手とともに、各地域において専門支援機関等との連携を図りながら見守りや相談ができる体制を機能させることで、地域福祉力を向上させる。	
計画	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）			
	子育てや家事・介護、仕事のことなど生活の困りごとや悩みがあるとき、相談できる区民の割合：区民モニターアンケートで令和7年度末までに60%以上			
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体		
	A：順調 B：順調でない		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない		

具体的取組 2－1

【各地域の特性に応じた地域福祉支援体制の充実】

2 決算額 47,881千円 3 予算額 47,522千円 4 算定見込額 46,602千円

計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）	
	地域福祉のネットワークづくりを行い、引き続き、地域福祉活動の中核を担う地域福祉活動コーディネーターの育成と地域での見守りに関するノウハウを蓄積するため、行政と地域をつなぐ区社会福祉協議会や関係機関と連携しつつ、地域の見守りなどの地域支援体制の充実を図る。各地域の課題抽出や分析を行い地域の福祉活動への支援など 5事例つながりづくりや支えあい活動の好事例について、区社会福祉協議会と連携しつつ情報発信を行う。		お住まいの地域で、緩やかな見守りや相談活動が行われていると感じる区民の割合：地域の方々が集まる場でアンケートを実施し、75%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が50%未満であれば、手法を再検討する。 前年度までの実績 令和3年度実績（令和3年10月末時点） ・各地域の課題抽出や分析を行い、地域の福祉活動への支援 3地域 令和2年度実績 ・お住まいの地域で、緩やかな見守りや相談活動が行われていると感じる割合 84.5% ・各地域の課題抽出や分析を行い、地域の福祉活動への支援 5地域	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成			
自己評価	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ―：プロセス指標未設定（未測定）		
	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
自己評価	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ―：プロセス指標未設定（未測定）		

具体的取組2-2

【地域における支えあい活動への支援】

		2決算額	447千 円	3予算額	650千 円	4算定見込額	619千 円
計画	当年度の取組内容	区民が主体的に継続した認知症予防の取組ができるよう、地域福祉活動の担い手の確保や取組支援を行う。 「いきいき脳活（認知症予防推進事業）」検討会の定期開催において、関係機関連携のもと、具体的な取組支援方法を検討。 地域において、「いきいき脳活サポートマニュアル」等を活用した主体的な認知症予防取組の実施を支援 50か所 地域住民などを対象とした講演会等の実施 2回 区民への認知症予防に関する啓発 「いきいき百歳体操」において、活動の担い手となるサポーターの養成と養成後のサポーター支援のための事業の継続 障がいのある方や認知症の方などとその家族の気持ちに寄り添い、すべての人たちが住んでいる地域で暮らし続けることができるよう、周囲の理解促進のための取組の継続					
	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）	①認知症予防啓発の取組において、参加者評価アンケートで自ら取組に参加したいと感じた参加者の割合70%以上 ②地域住民などを対象とした研修会等の受講者評価シートにおいて、認知症や発達障がいなど、地域において生きづらさを感じている方がいることなど、何らかの気づきがあったと感じた割合80% 【撤退・再構築基準】 ①上記目標が50%未満であれば、手法を再検討する ②上記目標が60%未満であれば、手法を再検討する 前年度までの実績 令和3年度実績（令和3年10月末時点） ・「いきいき脳活検討会」を3回開催し、認知症予防推進に関する取組方法を関係機関と検討 ・地域等における「いきいき脳活サポートマニュアル」を用いた取組を行っているグループ 50か所 ・いきいき脳活研修会の実施 1回 ・地域住民を対象とした認知症予防に関する講演会等開催の準備活動 ・認知症予防啓発用冊子「脳活だより」の作成活動 ・「いきいき百歳体操」継続箇所数 43か所（令和3年8月末） 令和2年度実績 ・地域等における「いきいき脳活サポートマニュアル」を用いた取組を行っているグループ 52か所 ・いきいき脳活検討会を開催し、認知症予防を推進する取組方法を検討 5回 ・いきいき脳活研修会の開催 3回 ・地域関係団体と連携した区民向け講演会（2部制）を開催 1回 ・すべての人たちが住んでいる地域でその人らしく暮らし続けることができるよう理解を促進する講演会（感染症対策のため講演会は中止し、区ホームページにより講演会資料を広報） ・「いきいき百歳体操」継続箇所数 45か所					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成					
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ―：プロセス指標未設定（未測定）					
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった						
	②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった						
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ―：プロセス指標未設定（未測定）					

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題3

【こどもが元気で育つまちづくり】

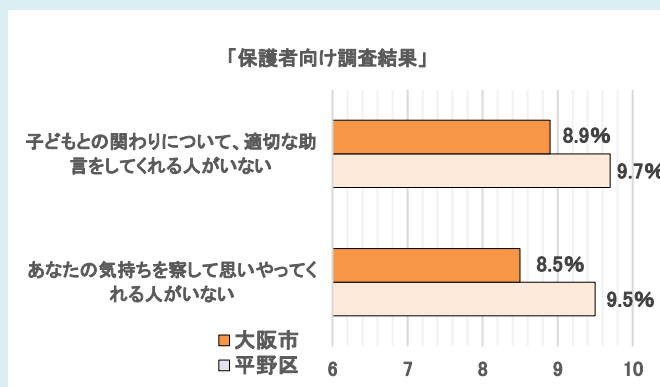
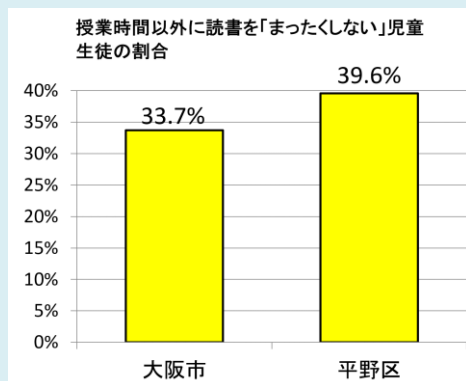
【主なSDGsゴール】



めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

こどもたちが家庭・学校・地域で生まれ健やかに成長し、次の世代を担っていくことができるまち『ひらの』をめざす。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）



出典：子どもの生活に関する実態調査（平成28年度）

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

- ・大阪市全体で「重大虐待ゼロ」に向けた取組を進める中、平野区では非常に多くの要保護児童（虐待リスクのある児童）が登録されている。
- ・子どもの生活に関する実態調査（平成28年度）では、平野区のこどもを取り巻く生活状況が明らかになるなかで、経済面や学習習慣の定着、こどもの社会性・自立性の点において様々な課題が明らかになった。
 - 経済的な理由により食費を切り詰めたことのある世帯43%（本市比率より+5%）
 - 経済的な理由でこどもを習い事に通わせることができなかった小中学生の保護者15%（本市比率より+3%）
 - 授業時間以外に読書をまったくしない小中学生40%（本市平均より+6%）
 - 1日あたり勉強を全くしない小中学生14%（本市比率より+4%）
 - 自分に自信がない小中学生53%（本市比率より+3%）
- ・全国的に問題となっている高校中退の問題について、区内の府立高校との意見交換会においても深刻な状況が報告されている。また、その背景には、生活困窮など、複合的な家庭問題を抱えている事例が多い。高校卒業と就職に向けた、「将来への安定した自立」をめざし、こどもの生活基盤の整備をすることが課題である。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- ・「重大虐待ゼロ」をめざし児童虐待対策を実施するにあたり、「未然防止」「早期発見」「早期対応」の3つの観点から体制を充実させる必要がある。
- ・こどもたちが経済的な理由や家庭環境に左右されることなく、住み慣れた地域（おおむね小学校区）で健やかに育まれるために、こどもの居場所や世代を超えたつながりづくりの運営をサポートし、こどもの「生きる力」と平野区全体でこどもを育む地域・家庭の教育力の向上をめざしていく必要がある。
- ・こどもたちに生きる力につながる学習習慣の定着を通じて豊かな人間性をしっかりと身につけてもらえるよう、総合的なこどもたちの学びを支援する必要がある。
- ・家庭の養育力の低下や貧困などの生活における困窮度の高い子育て世帯において、複合的な課題があることから、関係機関などと連携しつつ、子育て支援施策を充実していく必要がある。
- ・生活困窮など、さまざまな理由により不登校に陥るおそれのある高校生に対して、高校生活の定着に向けて支援し、生きる力につなげていく必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

自己評価

めざす成果及び戦略 3 【こどもの生きる力の向上】

計画	めざす状態＜概ね3～5年間で念頭に設定＞		戦略（中期的な取組の方向性）		
	- こどもが「生きる力」を身につけ、自ら大人や友達と関わりを持ち育つことができる状態 - 全てのこどもが適切な環境で養育される状態		- こどもが「生きる力」を身につけることができるよう、こどもたち一人ひとりに対するきめ細やかな支援 - こどもの養育環境の向上へ向けた、こども及び保護者への支援		
自己評価	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）				
	- 学校に行くのは楽しいと感じる生徒の割合：全国学力・学習状況調査で令和7年度末までに76%以上 - こどもサポートネット支援対象者件数：令和4年度以降継続的に300件以上				
	戦略のアウトカム指標に対する有効性		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須		
	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す				
	アウトカム指標の達成状況		前年度 個別 全体		
				今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	
		A：順調 B：順調でない			
戦略の進捗状況		a：順調 b：順調でない			

具体的取組3－1

【児童虐待防止・早期発見への取組や子育てに悩む親への支援】

2 決算額 12,258千 円 3 予算額 20,843千 円 4 算定見込額 21,090千 円

計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）	
	大きな社会問題となっている児童虐待の対策として、「未然防止」「早期発見」「早期対応」の3つの観点を基本に「重大虐待ゼロ」をめざし、「ももいろ子育てねっと・ひらの」を継続して運用し、支援体制の強化を図る。特に今年度は、子育て支援関係者のスキルアップをめざした講演会を開催する。 また、区役所（子育て支援室）と地域及び学校との連携をより密にすることで、「要保護児童対策地域協議会」の機能強化を図る。 さらには、楽しく子育てができるような情報発信を幅広く行い、子育ての不安や悩みのある方が相談しやすい機会を増やす。		子育てについて必要な情報を入手できていると感じる、子育て世代の保護者の割合：子育て世帯向けアンケートで60%以上 【撤退・再構築基準】 上記割合が40%未満であれば、事業を再構築する。	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成			
自己評価	戦略に対する取組の有効性		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）			
	当年度の取組実績			
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成			
戦略に対する取組の有効性		ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）		

具体的取組3-2

【こどもの学習意欲の向上】

		2決算額	5,905千 円	3予算額	7,080千 円	4算定見込額	6,860千 円
計画	当年度の取組内容			プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）			
	読書ノートを区内小中学生及び就学前児童（3～5歳）に配付し、読書習慣の定着を図るとともに、目標を達成した児童生徒に区長表彰を行う。あいさつや清掃、ボランティア活動等、さまざまな分野において、がんばる小・中学生について区長表彰を行う。 平野区の市立小学校に就学する児童を対象に、国語・算数をはじめとした学習支援を行い、学習習慣の定着、豊かな人間性を育むなど、こどもたちに「生きる力」を身につけてもらえるよう支援する。（全22小学校、こどもの居場所等）			読書が好きと感じる平野区児童（6年生）の割合：大阪市小学校学力経年調査で76.5%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が50%未満であれば、手法を再検討する 前年度までの実績 令和3年度実績（令和3年10月末時点） ・読書ノートを区内小中学生及び就学前（3～5歳）の児童に配付 ・区内市立小学校での学習支援 令和2年度実績 ・読書ノートを区内小中学生及び就学前（3～5歳）の児童に配付 ・区内市立小学校での学習支援 ①児童の読書習慣が以前より、定着してきたと感じる小学校の割合 95.4% ②アンケートで参加児童のうち「以前より学ぶことが楽しい」と感じる児童の割合 93.3%			
中間振り返り	プロセス指標の達成状況			課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性			ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）			
自己評価	当年度の取組実績			課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	プロセス指標の達成状況			改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性			ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）			

具体的取組3-3

【こどもたちへのサポートや学校生活の定着支援】

		2決算額	26,606千 円	3予算額	31,637千 円	4算定見込額	30,948千 円
計画	当年度の取組内容			プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）			
	学校における教育分野の支援と区役所における保健福祉分野の支援を連携し、こどもと子育て世帯が抱える課題に対して総合的な支援を行う仕組み（こどもサポートネット）を効果的に実施する。 生活困窮など、さまざまな理由で不登校に陥るおそれのある概ね15～18歳の高校生が卒業をめざせるよう、また、卒業後の就労・社会生活について長期的に安定した将来設計ができるようにするために、家庭訪問等を中心とした個別支援を行う。 対象生徒やその家族の抱える課題を早期に把握し、高校生活の定着や卒業後の自立に向けた生活を支援するため、教育・福祉などの関係機関とのネットワークづくりを通じた支援できる仕組みをつくる。 ・相談件数 15件以上			①こどもサポートネット支援対象者件数:300件以上 ②個別支援を行った者のうち、進級・卒業・転学・単位取得などにおいて前向きな変化が見られた者の割合 70%以上 【撤退・再構築基準】 ①上記件数の50%未満であった場合、実施手法の見直しを行う。 ②上記割合が30%未満であった場合、事業の見直しを行う。			
				前年度までの実績			
				令和3年度実績（令和3年8月末時点） ①こどもサポートネット支援対象者件数:95件 ②個別支援を行った者のうち、進級・卒業・転学・単位取得などにおいて前向きな変化が見られた者の割合 71.4% ・総合相談件数 5件 個別支援件数 21件 令和2年度実績 ①こどもサポートネット支援対象者件数:311件 ②個別支援を行った者のうち、進級・卒業・転学・単位取得などにおいて前向きな変化が見られた者の割合 93.1% ・総合相談件数 10件 個別支援件数 29件			
中間振り返り	プロセス指標の達成状況			課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ―:プロセス指標未設定(未測定)				
自己評価	当年度の実績			課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	プロセス指標の達成状況			改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ―:プロセス指標未設定(未測定)				